



# 3章

## 夏季のイベントにおける 熱中症対策

---

(1) イベント企画時点での対策(安全管理の留意点)

(2) イベント実施時の対策

1) 暑熱環境の把握とその緩和

2) 暑熱環境を緩和するための設備

3) 適切な呼びかけ・啓発の実施

コラム 暑いときはこまめに水分補給

～飲水による熱中症発生リスクの低減効果～

コラム イベント時の障がいや病気を持っている方への配慮

(3) 熱中症の発生に対する対応

1) 傷病者発生時のマニュアルの作成と活用

2) 救護所の設置と熱中症傷病者への対応

3) イベントの中止の判断基準などの準備

(4) スタッフにおける対策について

コラム アトランタオリンピックでのボランティア等の熱中症発生状況

コラム 熱波とマスギャザリングイベント

コラム 外国人旅行者アンケートから見た、夏の暑さ・熱中症への対処

(1) イベント企画時点での対策(安全管理の留意点)

## 3章 夏季のイベントにおける熱中症対策

季節を問わず、一般的な留意点として、イベントを実施するに当たっては、責任者を決めた上で、傷病者の発生や災害に備えたマニュアルを作成し、参加者全員が共通の認識の元で活動できるようにしなければなりません。このことはイベントを企画した時点で「安全はすべてに優先する」ことを意識して、情報の共有や安全対策の早期の取り組み、教育・訓練の実施に取り組む必要があります。特に、熱中症は予防策があるため、夏季のイベントでは熱中症患者の発生を可能な限り少なくし、発生後には適切な対応がとれる体制を作ることが重要です。

本項目では、適切な対応のための(1) イベント企画時点での対策、(2) イベント実施時の対策、(3) 熱中症の発生への対応、(4) スタッフにおける対策についてまとめました。それぞれの対策のポイントを巻末資料として「夏季のイベント主催者の熱中症対策についての準備状況チェックリスト」にまとめました。イベント主催者はイベントの内容に応じて、このチェックリストを参考に計画を作成し、熱中症対策を具体化してください。

### (1) イベント企画時点での対策(安全管理の留意点)

「安全は全てに優先する。安全なくして、品質も工程も予算もない」と言われています。イベントの制作現場や会場運営で安全管理を遂行するうえでの一般的な留意点を次に挙げていますので、夏季のイベントに限らず実施する必要があります。

#### 1. 「安全第一」意識の徹底

全ての関係者・スタッフに安全意識の徹底を図る必要があります。安全は最優先事項であることを徹底します。

#### 2. 情報の共有と情報管理

危険・危機に関する情報はもとより、品質、工程、予算に関する情報を関係者・スタッフ全員で共有する必要があります。また、SNS社会では風評被害を防ぐための積極的な情報発信と情報管理が必要です。

#### 3. 安全管理の「見える化」

安全を重視し、安全管理を徹底していることを、目に見える形で示す必要があります。安全管理の看板やサインの掲出、制服警備員の配置やユニフォームを着たスタッフの案内・誘導を積極的に行うなど、会場内をコントロールしていることをはっきりと「見える化」することが重要です。

#### 4. 非常時のユニバーサル対応

イベント会場には、車いすを使う人、聞こえない人、見えない人、外国人、小さな子ども連れなど、いろいろな人がいます。非常時の避難経路の案内など、音声や日本語の文字だけでは情報が伝わらない場合もあります。事前にアイマスクや車いすを使って避難訓練をしておく、ハード面での対応が難しい場合は、スタッフでサポート体制をつくるなどの準備が必要です。

#### 5. 教育・訓練

イベントの安全管理のためには、知識だけでなく実務能力も重要です。そのためには教育・訓練は欠かせ

ず、座学(教室での授業)と現場研修(会場現場での実習)のカリキュラムで実施する必要があります。

## 6. 設備と装備

安全管理には、心構えや知識だけではなく、消火器やスプリンクラー、放送設備などの会場設備、およびヘルメットやインカム、スタッフ用の装備などの充実も重要です。

## 7. 安全管理マニュアル

安全管理マニュアルは、「危険予知・予測⇒危険予防⇒緊急時対応」をシミュレーションし書類化したものです。制作現場や会場運営現場を調べ、現場に即した安全管理マニュアルにする必要があります。

## 8. 保険

労災保険などの法律で決められた保険はもとより、イベントでの様々な危険要因を想定(予知・予測)し、保険には必ず入るようする必要があります。

(イベント業務管理士公式テキスト(一般社団法人日本イベント産業振興協会)から作成)

また、近年各種イベントへの外国からの旅行者の参加が増える傾向にあります。このため、各種案内や表記には、英語など多言語対応とするよう、企画段階から取り組む必要があります。

## (2) イベント実施時の対策

### 1) 暑熱環境の把握とその緩和

#### (ア)運営上の工夫

熱中症患者の発生を予防するためには、暑熱環境の改善と適切な飲料の供給が必要です。イベントが開催される際は、開始時刻の数時間前から参加者が滞留し、イベント終了後も退出まで長時間を要する場合があります。そのため、例えば夕方から夜間にかけて開催されるイベントであっても、日中の炎天下で参加者が待機する場合があります。したがって、熱中症の発生しやすい環境を避けるような運営上の工夫が重要です(図3-1参照)。

具体的には、以下のような対応等が考えられます。

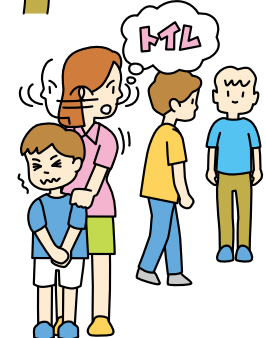
#### a. 待機列を作らない工夫と日陰への誘導

- ・再集合時刻を明示して長時間の待機をさせない(整理券の配布等を含む)
- ・「指定席」を導入して、席確保のための待機をさせない(少なくする)
- ・待機者をなるべく直射日光にさらさせない  
(木陰や施設の影に誘導する)



#### b. 開場時の混雑緩和の工夫

- ・入場する施設のゲート数を増やす、幅を広くする
- ・観客が集中しないようにイベントのプログラムを工夫する



#### c. 十分なトイレの確保

- ・十分な数のトイレを設置して、わかりやすく案内表示をすることで、混雑を少なくする。